

中日両言語の異同表現

高橋 弥守彦

Expressions of Difference in Chinese and Japanese

Yasuhiko TAKAHASHI

内容提要

无论是哪个国家的语言，可以说基本上都有一一对应的关系，因此可以互译。但是，每一种语言都有其反映国情的独特表达。比如日语中有「小糠雨、天気雨、にわか雨」（牛毛细雨、晴天雨、骤雨）等很多关于各种雨的表述，而汉语在夸张表达、亲属称谓以及拟人手法等方面独具特色。本文将探讨汉语的这些独特表达的由来和与此对应的以写实表达为中心的日语译文之间存在怎样的关系。

キーワード：誇張表現 身内型表現 擬人法・擬物法 成語・故事など

目次

0. はじめに
1. 誇張表現
2. 身内型表現
3. 擬人法・擬物法

4. 成語・故事など
5. おわりに

0. はじめに

言葉は現実を反映するのが原則である。現実を反映する〔食べる、寝る、話す〕などのヒトの基本的な生活様式を表す単語は、どの国の言語であっても一般的には対応関係（例 1, 2）にある。中日両言語も例外ではない。しかし、社会環境に育まれた言語は、その国独特の表現がある。中国語では、以下にあげる誇張表現（例 3）・身内型表現¹⁾（例 4）・擬人法（例 5）・成語などがそれにあたる。

- (1) 会议很快就拟出了方案。（『人民』90-3-99）
会議は、すぐに方案を決定した。（同上）
 - (2) 弟骑着一辆旧自行车，驮着两袋黄灿灿的小麦，给我送到学校面粉厂。（『人民』97-5-87）
弟がオンボロ自転車に粒よりの小麦を二袋も積んで、学校の製粉場に届けてくれた。（同上、97-5-86）
 - (3) 陈君闻言，半天没吱声。（『人民』93-8-111）
話を聞いて、陳君はしばらく黙り込んでしまった。（同上、93-8-110）
 - (4) 小郭的女友昨晚将情丝扯断，小郭思忖邀几个哥们儿破她的相。（『人民』96-4-87）
ゆうべとうとう彼女に振られて、いまや仲間を集めて彼女の顔を切つてやろうという算段をしている。（同上、96-4-86）
 - (5) 一阵屈辱感袭上心头，我直想哭。（『人民』95-5-99）
屈辱感に襲われて、泣きたくなる。（同上）
- 本稿では、先行研究と実例に基づき、中国語のこの三表現法（誇張表現・

¹⁾ 高橋弥守彦（2017：26～34）は、身内型表現と他人型表現について詳述している。身内型表現は親密な関係を表すとしている。

身内型表現・擬人法）などとそれに対応する日本語の訳出法についての分析を試みる。

1. 誇張表現

中国には古来誇張（デフォルメ）表現が多々ある。特に唐詩には誇張表現²⁾がよく見られる。漢詩の世界では、それが不思議に雄壯な表現と美しいリズムを備えているように感じられる。たとえば、以下の二首である。

江雪（柳宗元）

千山鳥飛絶 千山鳥飛絶え
万径人踪灭 万径人踪滅す
孤舟蓑笠翁 孤舟蓑笠の翁
独釣寒江雪 独り釣る寒江の雪

絶句（杜甫）

两个黄鹂鸣翠柳 兩個の黄鸝翠柳に鳴く
一行白鹭上青天 一行の白鸝青天に上る
窗含西岭千秋雪 窓は含む西嶺千秋の雪
门泊东吴万里船 門は泊める東呉万里の船

中国の誇張表現は、筆者の調査によれば、スケールの大小に基づく二種類に分けられる。このほか日本と同じような一般的な生活に関する誇張表現もある。中国の誇張表現は、一般にこの三種類に大別できる。本稿では、この三種類を極大系誇張表現（例6）・極小系誇張表現（例7）・一般系誇張表現（例8）と名づけ、これらの生じる背景について調査・分析する。また、中日対照言語学の観点から、これらの誇張表現をどのような日本語に訳すべきかも検討する。

(6) 大约过了一个世纪，老木勇敢地看了看手表，好，还有一分钟！（『人民』89-4-102）

およそ一世紀ほどの時間がたったろうか。ラオムーは、敢然と腕時計に目をやった。うん！余すところ一分！（同上、89-4-103）

(7) 他说不出话，半个字也说不出。（『人民』95-12-86）

²⁾ 李白の五言絶句《秋浦歌》の“白发三千丈”は、誇張表現として特に有名である。

何か言おうとしたが言葉が出ない。(同上)

- (8) 手術前晚她哭了一整夜，哭湿了白被单和枕头，她哭自己终于重新拾回了生命，也哭那个失去生命却救了她的人。(『人民』96-2-87)

手術前夜、彼女は一晚中泣いた。白い布団カバーと枕が涙でぐっしょりになった。もう一度人生をやり直せる嬉しさと、命を落としながら自分を救ってくれた人のために涙を流したのである。(同上、96-2-86)

1.1. 極大系誇張表現

中国には古くから誇張表現があり、今でもしばしば見られる。中国伝統の誇張表現はスケールの大きな表現が多く、現代中国語のなかにもスケールの大きな表現がしばしば見られるが、現代日本語には見られない。まず、この極大系誇張表現から見ていこう。

- (9) “你到哪里去了？我们等了老半天，菜都凉了。”(『人民』95-3-99)

「どこに行ってたの？ずっと待ってたんだよ。おかずはもうさめてしまったよ」(同上)

- (10) 为了给这笔难得的收入选择最佳消费方式，我们召开了好几次“学术讨论会”。(『人民』95-1-101)

この得難い金の最良の用途についても、何を選択すべきかで、僕たちは何回も「学術討論会」を招集した。(同上、95-1-100)

- (11) 于是，那天碰巧来了机会，牟德俊便拿出棋来，杀气腾腾向局长下了战书。(『人民』95-2-99)

そこでこの日、うまくチャンスが到来したので将棋の駒を取り出し、殺気をみなぎらせて局長に挑戦状をつきつけた。(同上)

- (12) 胖墩墩的小伙子把康君压回座位：“说什么？胃有点不舒服？这没关系。今天哥儿们几个难得一聚，就是没有胃，也得喝！”(『人民』95-3-99)

ふとったのが押さえつけるようにして康君を座らせた。「何をおっ

しゃるんです。胃がちょっと悪いって？大丈夫ですよ。今日は私たち兄弟が珍しく集まったんです、胃なんかなくなっちゃあ！」（『同上、95-3-98）

- (13) 她从小就觉得自己的心跳特别快，有时候运动稍微激烈些，心脏就好像要从嘴里跳出来似的；……（『人民』96-2-87）

彼女は小さい頃から自分の心臓の鼓動が速すぎることに気がついていた。ときどきちょっと激しい運動をしても、心臓がはねて口から飛びだしそうだった。……（同上、96-1-86）

言語学研究会の奥田靖雄や鈴木康之の提唱する論文執筆三原則³⁾は「実例の中に解答がある（実例主義）。言葉を体系として捉える（体系主義）。言葉は現実を反映する（現実主義）。」である。

この三原則のうちの第三原則「言葉は現実を反映する（現実主義）」の角度から見れば、中国語の極大系誇張表現は大陸ならではの独特な表現と捉えるほうがよさそうである。この誇張表現は現代中国語のなかでも減り張りをつけ、感性表現を豊かにしている。日本語にも誇張表現はあるが、中国語のようなスケールの大きな誇張表現はない。日本語は現実を飾らずに、ありのままの現実を表現する写実（リアリステック）表現で訳すほうが適訳となる。仮に誇張表現で訳すとしても、日本語の誇張表現は写実表現を基本とした誇張であり、写実表現からあまり掛け離れないほうがよさそうである。両者の表現上の違いは、中日両国の自然環境とそれに育まれた感性表現とが反映されていると看做せる。

例(9)は待ち時間の長さの誇張“等了老半天”[ずっと待ってたんだよ]を言っている。中国語は時間の長さの極大系誇張表現だが、日本語は時間の長さを写實的に捉えている。これは中日両言語の特徴をうまく捉えた適訳である。もしもこれを連語レベルの意味どおりに日本語訳をすれば、[丸半日待った]となり、現実と違ってしまう。上掲の(6)も時間の長さの極大系

³⁾ 高橋弥守彦（2014：195）は「編集後記」で、奥田靖雄や鈴木康之の提唱するこの論文執筆三原則に言及している。

誇張表現“大约过了一个世纪”[およそ一世紀ほどの時間がたったろうか]だが、分文の意味どおりに訳しているので、かなり不自然な日本語訳である。写実的な表現で訳すほうが、自然な訳[ずいぶん長い時間がたったように思われたので]となるだろう。

例(10)(11)は日常生活での誇張表現“召开了好几次‘学术讨论会’”[何回も「学術討論会」を招集した]、“杀气腾腾向局长下了战书”[殺気をみなぎらせて局長に挑戦状をつきつけた]である。(10)は「学術討論会」と訳すと、日本語ではかなりオーバーな表現になる。(11)は暗喩表現であり、実際に挑戦状を突きつけたわけではないので、日本語では前者を[何回も「相談」した]、後者を[怒りを露わにして局長と対戦した]と、写実的に訳すほうが日本語らしくなるだろう。

例(12)(13)は身体に関する誇張表現“就是没有胃，也得喝”[胃なんかなくたって飲まなきゃあ]、“心脏就好像要从嘴里跳出来似的”[心臓がはねて口から飛びだしそうだった]である。前者は胃がなければ飲めないわけだから、写実表現で[気分が悪かったって飲まなくちゃ]と訳すほうが日本語として受け入れられやすいだろう。後者も日本語としては[心臓がバフバフした]と写実表現で訳すほうがいいだろう。

以下の3例は、いずれも身体名詞“心”に関する原文と訳文だが、中国語は身体名詞“心”がヒトの動きのように描かれ、生命感溢れた表現となり、日本語はいずれも写実表現で訳した適訳である。

(14) 洁的心一下子提到了嗓子眼。(『人民』96-1-87)

潔は心臓がドキドキし、気が気でない。(同上、96-1-86)

(15) 洁划燃一根火柴，信便在洁的手上渐渐地化成了灰烬，一棵悬着的心终于落回原处。(『人民』96-1-87)

潔は手早くマッチを取り出して手紙に火をつけた。幾日も彼女を悩ませて来た秘密の手紙は、やがて彼女の手の中で灰と化した。はらはらどきどきしていた心臓がやっと落ち着きを取り戻した。(同上)

(16) 忽然，洁的心猛地狂跳起来：天哪，我怎么把自己的背包交给了他，

那里面……那里面有一封自己珍藏了二十多年的信啊。（『人民』96-1-87）

突然、潔の心臓が高鳴りはじめた。大変だ！あんまりせかされたので、うっかり自分のバッグを夫に渡してしまったが、中にはこの二十年間大切にしまっておいた手紙が入っていたのだ。（同上、96-1-86）

上掲の3例はカラダ名詞“心”が主体であり、中国語では、それがまるで生命体のように描かれている。これらは擬人法と言えるが、ここでは誇張表現として捉える。これらの誇張表現は中国語の原文の語彙的な意味に基づき、そのまま日本語に訳すと、かなり違和感がある。日本語に訳す場合は写實的に訳す工夫が必要である。

例（14）の“洁的心一下子提到了嗓子眼”は写実表現で訳しているので適訳〔心臓がドキドキし、気が気でない〕と言える。しかし、語彙上の意味どおりに訳すと、日本語ではかなり不自然な訳〔潔の心臓はとっさにのど仏にぶら下がった〕となる。（15）の“一棵悬着的心终于落回原处”は〔はらはらどきどきしていた心臓がやっと落ち着きを取り戻した〕と訳している。〔心臓がやっと落ち着きを取り戻した〕は、日本語としては若干違和感が残る。これも適訳であるが、写実表現の〔はらはらどきどきしていた心臓がやっと落ち着いてきた〕と訳すほうが、いっそう日本語らしくなるだろう。これを語彙上の意味どおりに訳せば、〔宙にぶら下がっていた心臓がやっと元の場所に戻った。〕となる。日本語では非生命体は非生命体らしく移動のない写実表現で訳さないと違和感がある。（16）の“洁的心猛地狂跳起来”は〔潔の心臓が高鳴りはじめた〕と訳しているので適訳である。これを意味どおりに訳すと、かなり不自然な訳〔潔の心臓が突然激しく跳びあがり始めた〕になる。

1.2. 極小系誇張表現

誇張表現意は極大系だけではなく、極小系にも誇張表現がある。しかし、

極小系誇張表現はめったに見られない。

- (17) 陈君当时很欣赏李某的骨气，没想到三年里未曾收到李某半个字，原来他……若不是为远道而来的报社同仁接风洗尘，陈君会当即拂袖而去的。（『人民』93-8-111）

陳君はホネのあるやつだと感心したものだが、李某は以来三年間な
に一つ書いて来るでもなかった。なるほど、こういうことだったの
か……もし遠来の記者仲間の歓迎会でなかったら、陳君はさっさと
出て行ったことだろう。（同上、93-8-110）

- (18) 要是遭到回绝，我一定不会再有活在世上的勇气，因为我破碎的心，再也经受不住任何哪怕是小小的打击。（『人民』95-12-85）

もし断られたら、この世に生きている勇氣はない。もう心はぼろぼ
ろで、これ以上いかなる小さなショックにも、おれは耐えられない
んだ。（同上、95-12-86）

例 (17) の“没想到三年里未曾收到李某半个字”は[李某は以来三年間何
一つ書いてくるでもなかった]、(18) の“再也经受不住任何哪怕是小小的打
击”も[これ以上いかなる小さなショックにも、おれは耐えられないんだ]
と極小を含む語句“半个字”“小小的打击”の分文を写実的な表現で訳して
いる。いずれも適訳である。

1.3. 一般系誇張表現

中国にも日本にも誇張表現がある。両国でほぼ共通して用いられる誇張表現は、上掲の極大や極小の誇張表現ではなく、現実の一般生活と精神生活をややオーバーに表現した語句の誇張表現である。本稿では、これを一般系誇張表現⁴⁾という。

- (19) 手术前晚她哭了一整夜，哭湿了白被单和枕头，她哭自己终于重新拾回了生命，也哭那个失去生命却救了她的人。（『人民』96-2-87）

⁴⁾『新明解国語辞典』第3版（1989:401）によれば、[誇張]とは[実際よりも大げさに言ったりしたりすること。]とある。

手術前夜、彼女は一晩中泣いた。白い布団カバーと枕がぐっしょりになった。もう一度人生をやり直せる嬉しさと、命を落としながら自分を救ってくれた人のために涙を流したのである。（同上、96-2-86）

- (20) 苦思了三日三夜，敏终于做出决定，在市报刊登一则“证婚启事”，希望能在茫茫人海中觅到一位物质上贫穷而精神上富有的知识分子为伴……。（『人民』95-4-99）

三日三晩悩んだあげく、敏はついに決定を下した。市の新聞に「配偶者募集」の広告を出し、物質的には貧しいが精神的には豊かなインテリを茫々たる人海の中から見つけ出し、わが伴侶としよう……（同上）

- (21) 我解放了似的长出一口气，一下子天地大多了。（『人民』95-5-99）
僕は解放されたような気になって大きくため息をつく。急に世界が広がったようだ。（同上）

- (22) 恋人离她远去了……她孤独，绝望，她觉得这个世界一片冰冷。（同上、95-12-86～87）

恋人も離れていった……彼女は一人ぼっちになり、絶望のあまり、氷のように冷たい世間をうらみました。（同上）

- (23) 终于知道自己有先天性心脏病时，她也流了一脸的泪。（『人民』96-2-87）

とうとう自分が先天性心臓病と分かったときは、彼女も泣きに泣いた。（同上、96-2-86）

- (24) 扑腾扑腾，她抚着剧烈跳动的胸口询问双亲，爸爸低头叹气，妈妈又流了一脸的泪。（『人民』96-2-87）

ドクドクと激しく打ち続ける胸に手を当てて両親に理由を尋ねると、父はうなだれてため息をつき、母は切なそうに涙を流した。（同上、96-2-86）

これらの一般系誇張表現は、時間（例19、20）、空間（例21、22）、行為

(例 23, 24) の 3 類に大別できる。一般系誇張表現に入るこれらの誇張表現ならば、日本語の中にも近い表現があるので、少し工夫をすれば、それほど違和感なく日本語に訳せる。

例 (19) “哭了一整夜” [一晩中泣いた]、(20) “苦思了三日三夜” [三日三晩悩んだあげく] は時間に対する誇張表現である。これらの時間表現は現実をややオーバーに表現した訳なので、日本語でもさほど違和感はない。同じ時間表現の例 (6) の “大约过了一个世纪” [およそ一世紀ほどの時間がたつたろうか] と比較すると明らかな違いがある。例 (6) の時間表現に関する日本語訳は、写実主義を重んじる日本人にとっては、かなり違和感があるだろう。

例 (21) の “一下子天地大多了” [急に世界が広がったようだ]、(22) の “觉得这个世界一片冰冷” [氷のように冷たい世間をうらみました] は、空間表現 “天地、这个世界” に対する誇張である。しかし、この空間表現はヒトの捉える精神的な空間表現であり、実際の空間を表現しているのではないので、日本語らしい写実表現で訳され違和感がない。

例 (23) (24) はともに涙に関する表現 “流了一脸的泪” [泣きに泣いた]、 “又流了一脸的泪” [切なそうに涙を流した] である。この 2 例も写実表現で訳す場面を考慮した適訳といえる。この 2 例を中国語の単語の意味どおりに訳すと、前者も後者も [顔中に涙を流した] または [顔が涙でぬれた] となるであろう。やはり訳文のほうがずっと優れている。中国語は話者の感じたありのままの現実を捉える実質視点で表現する言語なので、日本語の話題視点⁵⁾ から見ると、それはいろいろな解釈ができるといえる。そのため、話題視点で表現する日本語への翻訳に際しては場面を考慮しなければならないと言える。

2. 身内型表現

⁵⁾ 高橋弥守彦 (2017:71) で中日両言語における実質視点と話題視点について詳述している。

この身内型表現も中国には古くからある。文学作品『三国志演義』では義兄弟の誕生となる「桃園の誓い」の劉備（長男）・関羽（次兄）・張飛（弟）が特に有名であり、中国人の人間関係に多大な影響を与える。現代語でも、肉親でなくても相手を身内と認める“…哥”や“…姐”などを用い、その影響が現実の人間関係にも文学作品にも見られる。《紅岩》の“江姐”は特に有名である。大別すると、一般的には義兄弟（例25, 26, 27）・義理の親子（例28, 29）・義理の家族（例30）の3類に分けられる。

- (25) “老張，您就别客气了，今天不是叫您请客，而是我们哥儿们请您客——聊表谢意，您辛苦了。”（『人民』95-3-99）

「老張、ご遠慮はいりません。あなたにご馳走していただくんじゃなく、僕達がご馳走をして——ささやかですがお礼の気持ちを表したいんです。ほんとうにお疲れさまで」（同上、95-3-98）

- (26) 一次，牟德俊私下对一个铁哥们儿说——当然这是他酒后真言，这可是一门大学问哪！（『人民』95-2-99）

ある日、牟德俊はツーカーの友達にこっそり言った。——もちろんそれは、酒が入った後の本音だった。こいつは一種の学問さ！（同上、95-2-98）

- (27) 有一次，男孩子扑到陶理怀里动情地说：陶老师，我叫你哥哥行吗？陶理那一刻很激动，紧紧抱住了男孩子。（『人民』93-11-111）

ある日少年が陶理に抱きつき、感極まって言った、陶先生、ボク、先生をお兄さんと呼んでもいい？それを聞いて陶理はすっかり感動し、ひしと少年を抱きしめた。（同上）

- (28) 他最喜欢像个孩子般趴在她怀里，脸颊紧贴着她的胸脯，侧耳聆听她心跳的声音。（『人民』96-2-87）

彼は子供のように彼女の懐に顔を伏せ、耳をぴったり胸につけて、彼女の心臓の鼓動を聞くのが好きだった。（同上、96-2-86）

- (29) 下乡插队那会儿，他老在生产队长面前点头哈腰满脸堆笑装出一副孙子样，于是就捞了不少好处，被派干轻松活，挣满工分。（『人民』95-

2-99)

農村に下放していたころ、彼はいつも生産隊長にぺこぺこ頭をさげ、満面に笑みをたたえてヘイコラしたおかげで、楽な仕事に回されたり、労働点数でも満点をもらうなど、ずいぶんとうまい汁を吸ったものだ。(同上、95-2-98)

(30) 为了证明她们亲密无间，妻子干脆配了把门钥匙给她。(『人民』95-6-99)

二人の大変な親密さを証明するため、妻はさっさと合鍵を作って彼女に与えた。(同上)

身内型表現では義兄弟の関係に使うのが今でも一番多い。これは親しい関係であれば、今でも“…哥”“…姐”などをよく用いるので、今では一般化しているほどである。本来であれば、身内関係に用いる呼称なので、友人関係よりも身内同様の親しさがこめられている。たとえば、例(25)の“我们哥儿们请您客”[僕達がご馳走をして]の“我们哥儿们”は親しい人たちの集まりである。(26)の“私下对一个铁哥们儿说”[ツーカーの友達にこっそり言った]の“一个铁哥们儿”は非常に親しい関係である。(27)の“叫你哥哥”[先生をお兄さんと呼ぶ]は、かなり個人的に親密な関係を表している。師弟関係よりも兄弟関係のほうがずっと親密である。しかし、日本では先生をお兄さんと呼ぶのであれば、大変失礼な表現となる。ここには中国両文化の違いが表現されている。

身内型表現では義理の親子などの関係にもよく使う。例(28)の“像个孩子般趴在她怀里，脸颊紧贴着她的胸脯，侧耳聆听她心跳的声音”[子供のように彼女の懐に顔を伏せ、耳をぴったり胸につけて、彼女の心臓の鼓動を聞く]は親子関係の表現である。世間一般では親子関係が一番重要視されている。(29)の“老在生产队长面前点头哈腰满脸堆笑装出一副孙子样”[いつも生産隊長にぺこぺこ頭を下げ、満面に笑みをたたえてヘイコラしたおかげで]は祖父と孫の関係である。中国には古くから老人を尊敬する思想があり、現代中国でもこの思想教育に力を入れ全国に普及しているので、この関

係は親子以上である。

身内型表現では義理の家族関係にも使う。例(30)の“妻子干脆配了把门钥匙给她”[妻はさっさと合鍵を作って彼女に与えた]の[妻]と[彼女]は他人の関係だが、[鍵を渡す]ことによって家族同様の関係になる。

例(25)から(30)までの呼称や行為は、他人を身内並みに扱う表現であり、いずれも親しさを深めるための身内型表現である。

3. 擬人法・擬物法

中国語にも意思を持たないモノやカラダがまるで意思のある人間のように描かれる表現法がある。これは一般に擬人法⁶⁾と言われ、中国語ではこの表現法が特に発達している。

日本語にも[風がささやき、蝶が踊る]のような擬人法は、あることにはあるが、中国語ほど発達していない。日本語への翻訳では、原文に忠実に訳すより、意思を持たないモノやカラダの描写として、写實的に訳すほうが分かり易いし違和感がない。擬人法の対象は、大別すると物体(例31, 32, 33)、気体(例34)、感覚(例35, 36)に分けられる。

(31) “一上班电话追着屁股跑。应该给处长配备个‘BP机’。”(『人民』93-7-111)

「出てきたと思ったら、ひっきりなしに電話だもんな。ポケベル持たせてあげるべきだよ」(同上、93-7-110)

(32) 现在，那信却随着丈夫出公差去了。(『人民』96-1-87)

あの手紙は、いま夫とともに出張先に行っている。(同上、96-1-86)

(33) 衣服时新倒是时新，可总觉着在这地方穿出来不合适，束得人难受。(『人民』95-5-99)

服も流行のものなのに、この場にはそぐわないみたいで、からだ

⁶⁾『新明解国語辞典』第3版(1989:401)によれば、[擬人]とは[(文章を作る時に)人以外のものをヒトにたとえること。]とある。

こわばってくる。(同上、95-5-98)

- (34) 又说酒香不怕巷子深，别为小店浪费版面了。(『人民』93-8-111)

酒香は路地の深さを恐れず（うまい料理は宣伝しなくても評判が伝わる、の意）とも申します。当店のために紙面を浪費なさることはありません。(同上、93-8-110)

- (35) 整一大块静朝我心口压来。我感觉着自己在缩小，脚跟边的那一大提包红薯也在缩小。(『人民』95-5-99)

大きな塊りとなった静寂がみぞおちを圧迫し、自分が縮んでゆくような気がする。足もとに置いた大きな手提げカバンの中のサツマイモも縮んでゆく。(同上、95-5-98)

- (36) 一阵屈辱感袭上心头，我直想哭。(『人民』95-5-99)

屈辱感に襲われて、泣きたくなる。(同上)

例(31)の“电话追着屁股跑”[ひっきりなしに電話だもんな]、(32)の“现在，那信却随着丈夫出公差去了”[あの手紙は、今夫とともに出張先に行っている]、(33)の“衣服时新倒是时新，可总觉得在这地方穿出来不合适，束得人难受”[服も流行のものなのに、この場にそぐわないみたいで、からだがかわばってくる]では、中国語では物体“电话、信、衣服”がヒトのように描かれている。そのまま日本語に訳すと[電話が尻を追いかけている][手紙は夫の出張について行っている][服は新しいが、この場にそぐわなく、やりきれないほど人を束縛する]と訳せるだろう。日本語訳をする場合は、物体は物体らしく人間は人間らしく、訳文のような写実表現にしなければ、日本語らしい文にならない。

例(34)の“酒香不怕巷子深”[酒香は路地の深さを恐れず(うまい料理は宣伝しなくても評判が伝わる、の意)]は、中国語では気体“酒香”が人の気持のように描かれているが、写実表現の原則から言えば、括弧内の表現だけにするほうがいいだろう。

例(35)の“整一大块静朝我心口压来。我感觉着自己在缩小”[大きな塊りとなった静寂がみぞおちを圧迫し、自分が縮んでゆくような気がする]、

(36) の“一阵屈辱感袭上心头”[屈辱感に襲われて]は、感覚“静、屈辱感”が人のように描かれている。現代日本語でもこのような感覚表現はしばしば見られるので、まったく違和感がない。

擬人法の対極をなす表現方法の一つに擬物法がある。擬物法（暗喩）とはヒトをモノにたとえる表現であり、日本語でもよく[きみは僕の太陽だ。]のように表現する。たとえば以下に挙げる表現である。これも日本語より中国語の方がはるかに発達している。

(37) 我知道，这对他一生是个关键时刻，这么小的孩子，搞不好就会扎歪了根儿。（『人民』93-10-111）

私にはわかっている。今がこの子の一生にとってたいせつな時なのだ、こういう小さい子が、へたをするとすぐ道を誤ってしまうのだ。（同上、93-10-110）

(38) 相爱时他曾写诗说：如果你是牵牛花，我就是一棵树。（『人民』96-11-85）

過ぎし日、彼が「もしきみが朝顔ならば、ぼくは大きな木になろう」という詩を書いてくれたことがあったのだ。（『同上、96-11-84）

例(37)の“搞不好就会扎歪了根儿”は[うまく処置しないとゆがんで根を張る]ではなく、[へたをするとすぐ道を誤ってしまうのだ]と訳されている。現代日本語では訳文のようにヒトはヒトの属性として比喩的に訳すほうがいいだろう。訳文は優れていると言える。(38)の“如果你是牵牛花，我就是一棵树”[もし君が朝顔ならば、ぼくは大きな木になろう]と訳されている。現代日本語でも男女の比喩的なたとえとして、このような感覚表現はしばしば見られるので、まったく違和感がない。

4. 成語・故事など

成語・格言・故事・ことわざなどは、昔からどの国にもあるが、その国の現実を反映する表現が多い。日本は江戸時代までは中国の影響を強く受けて

いたので、ほとんどそのまま受け入れている場合が多い。その後、文化が大きく変わり、現代になると写実表現によって訳されている。

- (39) 在和那女孩的一次长吻后，陶理激情地说为了女孩子可上九天揽月……（『人民』、93-11-111）

彼女と初めて長い口づけをかわしたあと、激情に駆られて言った。
あなたのためならば、九天の高みに上って月をもとって参りましょ
う。（同上、93-11-110）

- (40) 矮个子大笑：“哈哈！那不是大水冲了龙王庙。”（『人民』94-4-93）
チビが大笑いして言った。「ハハハ！大水が水神様のお社を押し流
すってヤツだな。（身内同士で内輪もめをする、の意味）」（同上）

- (41) “幸福和痛苦是一对孪生兄弟。”这好像也是一句名人名言。（『人民』96-4-87）

「禍福はあざなえる縄のごとし」これもまた名言だ。（同上）

- (42) 阿浓只好这只耳朵进，那只耳朵出，或者干脆当补药吃。（『人民』94-1-93）

阿濃はそんなことばを、右から左に聞き流すか、さっぱりした栄養
剤をのんだと思うしかなかった。（同上、94-1-92）

- (43) 小江想，就一个申请报告，小菜一碟。（『人民』95-7-99）

申請書なんて朝飯前だ、と江君は思った。（同上）

例 (39) の“为了女孩子可上九天揽月”は [あなたのためならば、九天の高みに上って月をもとって参りましょう]、(40) の“大水冲了龙王庙”は [大水が水上様のお社を押し流すってヤツだな] と訳されている。現代日本ではほとんど故事・成語などは学校で習わないので、これらの訳ではやや難しく感じられる。たとえば、(39) の訳文 [九天の高みに上って] を [天に上って] と訳し、(40) は丸括弧のなかの表現で訳すほうがよさそうである。それに対し、(41) (42) (43) の訳文は現代日本語でもよく使われるので、適訳といえる。このほか、(44) (45) のように、中国語では同じ表現を使っている、日本語訳では異なる表現で訳す場合がある。

- (44) 功夫不負有心人，男孩子在學校期末考試中，成績名次提前了十五名。（『人民』、93-11-111）

一心岩をも通すで、少年は期末試験で十五番上がった。（同上）

- (45) 軍继续以一种顽强的毅力参加高考，功夫不負有心人，军终于考取了一所名牌大学！（『人民』95-4-99）

軍は、強い意志の力で大学入試に挑戦し続けた。志あれば道ひらく。ついに軍は、さる名門大学に合格した！（『同上、95-4-98）

例(44)(45)の下線部は同じ表現“功夫不負有心人”を使っているが、日本語訳[一心岩をも通す]と[志あれば道ひらく]は異なる。この日本語訳は言語環境をよく考慮し、あまり故事・成語を習わない日本人でも、見たり聞いたりすれば分かるので適訳といえる。

5. おわりに

言葉は現実を反映する。この原則があるので、人間の行動は一般にどの言語でも対応すると考えられている。たとえば、[歩く]は“走”、[食べる]は“吃”であり、どの国の言語も現実を反映するその国の単語で表現される。この原則の下に翻訳が可能となる。中日両言語も例外ではない。しかし、その言語に文化が入ると独特な言語表現となり、そのまま訳したのでは、翻訳としてかなり違和感が残る。この独特な表現として、中国語では誇張表現・身内型表現・擬人法・故事などがこれに当たる。

中国語にも日本語にも誇張表現がある。中国語の誇張表現は、筆者の分析によれば、上掲のとおり、極大系誇張表現・極小系誇張表現・一般系誇張表現の3種類に分かれる。日本語の誇張表現は中国語の一般系誇張表現に入れられるようである。前2者は自然環境を反映した中国語独特の文化概念が含まれているので、写実表現を重視する日本語では話題表現で訳さないと、日本語らしくなくなる。3番目の一般系誇張表現は写実表現をややオーバーに述べる誇張表現なので、このレベルであれば、そのまま日本語に訳しても日本語の誇張表現とさほど変わらないので、受け入れられやすい。

中国語の身内型表現は、一般に義兄弟・義理の親子・義理の家族の3類に大別できる。これらはいずれも現代日本語にない表現である。あっても死語化していて使われていないのが現状であろう。これは中国の社会環境が基本にあり、他人を肉親と看做す古くからある表現なので、その文化を学ばないと、現代日本人にはなかなか理解できない表現である。ただ、これらの表現は日本にも江戸時代まではあったが、現代では、事実と法律に基づく写実表現が重んじられ、ある特殊な社会を除いて、今では日本の一般社会にはないであろう。

中国の徳目はたくさんあるが、一般社会では「孝」が最重要視されている。現代中国でも「孝」の重要性はいたるところで宣伝されている。そのため、現代の中国でも親孝行が非常に重要視されている。親が遊びにくると1ヶ月くらい滞在するそうである。子供もかなり長く実家に宿泊するようである。今でも親子関係・兄弟関係は日本に比べるとかなり濃い関係になっている。これを基本として親しい友人関係があるので、身内型表現が衰えないのであろう。

擬人法・擬物法は中日両国ともにあるが、中国語のほうがかなり発達しているようである。日本語の擬人法は「風がささやき、花が笑う。」などの自然描写に多いが、中国語の擬人法は生命のないモノやコトなどが、まるで生命体としてのヒトのように表現されている。これもヒトの気持ちを移入する身内型表現から発展したものと思われる。上掲の実例を見ると、擬物法も喩えから始まり、モノへの感情移入へと発展した表現であろう。

中国語の故事・ことわざなどの日本語訳は、現代日本では故事・ことわざなどをあまり使わなくなっているのが、現代日本でも聞きなれている表現や理解できる表現であればよいが、さもないと現代日本人に分かり易い表現にするほうがいだろう。それとともに現代日本でも助け合いの精神や美しい日本語のリズムを守るためには、伝統的な日本の故事・ことわざなどをもっと学習する必要があるだろう。

言語資料

『人民中国』ショートショート 人民中国雑誌社 1988～1997

参考文献

1. 今富正巳（1995）『新訂中国語 ← → 日本語翻訳の要領』光生館
2. 苑 崇利（2008）『日本文化概観』外语教学与研究出版社
3. 王克非（1997）『《翻译文化史论》』上海外语教育出版社
4. 汪 玉林（2002）「中国語の中の数字文化」『明海日本語』第7号（ネット）
5. 栗田直躬（1996）『中国思想における自然と人間』岩波書店
6. 郭延礼（1998）『《中国近代翻译文学概论》』湖北教育出版社
7. 吴 大纲（2014）『《汉译日翻译语法学》』华东理工大学出版社
8. 鈴木康之（2000）『日本語学の常識』海山文化研究所
9. 鈴木康之（2014）『連語論講義録』大東文化大学
10. 高橋弥守彦（2001）「巻頭言」『日中言語対照研究論集』第3号 日中言語対照研究会 白帝社
11. _____（2014）「編集後記」『研究会報告』第36号（国際連語論学会 連語論研究〈Ⅲ〉）日本語文法研究会
12. _____（2017）『中日対照言語学概論—その発想と表現—』日本僑報社
13. 蜂屋邦夫（1996）『中国思想とは何だろうか』河出書房新社
14. 松本雅明（1973）『中国古代における自然思想の展開』中央公論事業出版
15. 张志军（2008）『《日语自他动词》』旅游教育出版社
16. 马祖毅（1998）『《中国翻译简史》』中国对外翻译出版公司
17. 松本雅明（1973）『中国古代における自然思想の展開』中央公論事業出版
18. 宮島達夫（1972）『《動詞の意味・用法の記述的研究》』秀英出版
19. 山本秀樹（2002）「世界諸言語の語順類型研究における諸問題」『人文社会論争、人文科学篇』7 弘前大学人文学部
20. 李金莲（2012）『《日汉被动句对比研究》』山东大学出版社
21. 林翠芳（2013）「中国語と日本語の数字に見る文化的要素に関する一考察」『高知大学留学生教育』第7号（ネット）